介護従事者

コロナ禍のケア状況アンケート

2020年10月

介護の崩壊をさせない実行委員会

コロナ禍における介護従事者の実態調査

1. 目的

　新型コロナウィルス感染が拡大する中、とりわけ緊急事態宣言下において、介護現場では様々な対策がとられた。介護従事者のケア状況を聞き取り、その実践や課題を共有し、今後の対策に生かすとともに、課題解決に向けた政策提案につなげることを目的としている。

2. 調査期間：2020年8月24日～9月30日

3. 調査対象：東京、神奈川を中心に介護事業に従事する者

4. 調査方法：オンライン調査

5. 回答状況：423人より回答あり

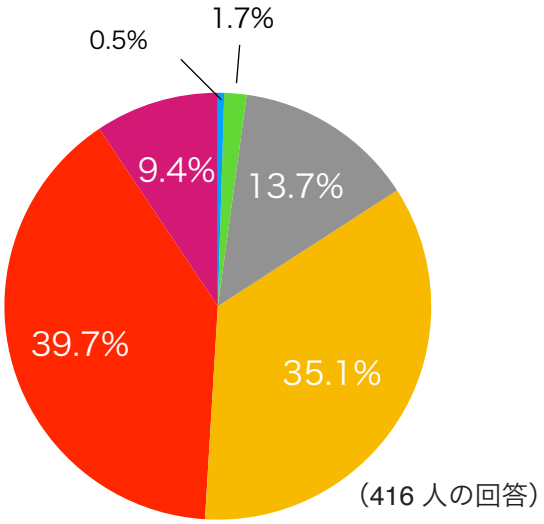
6. 集計結果

・集計結果の概要

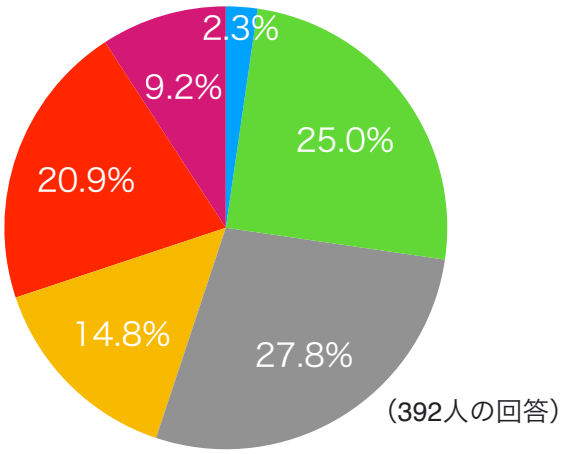
・調査結果（データ編）

集計結果の概要

1. 60歳以上の従事者が49.1%を占める。（50歳以上を含めると84.2%）2019年度 「介護労働実態態調査」における、全介護労働者のうち60 歳以上が 14.6%(50歳以上を含める37.5%)とのデータと比較すると60代、50代の従事者の割合が極めて高い。
施設サービスよりも従事者の平均年齢が高い「訪問、通所、居宅」など在宅サービスに関わる従事者が、回答者の多数を占めていることが一つの要因と考えられる。
加えて、回答者のうち勤続年数の長い従事者の割合が高いことがあげられる。勤続年数「11年以上」は、44.9%で、2018年度 「介護労働実態調査」における勤続年数「10年以上」=20.1%と比較しても、その割合が高い。



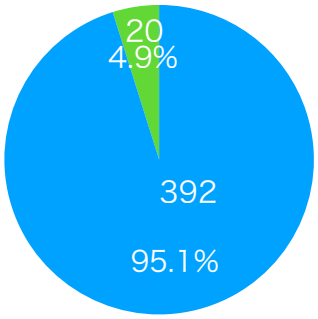
20代	2	0.5%
30代	7	1.7%
40代	57	13.7%
50代	146	35.1%
60代	165	39.7%
70代以上	39	9.4%



1年未満	9	2.3%
1~5年以下	98	25.0%
6~10年以下	109	27.8%
11~15年以下	58	14.8%
16~20年以下	82	20.9%
20年以上	36	9.2%

2. 緊急事態宣言期間にケアに入ったと回答した者は95.1%にのぼり、在宅を支えるサービスが継続されていたことが確認された。ケアに入った者のうち91.8%が「不安があった」と回答しており、その理由として「自分が利用者に感染させるのではないか」との回答が88.4%で最多であった。また、利用者のケアや関わり方について、59.8%の従事者が「接触を制限することは現実的に不可能でありストレスを感じた」としており、「スタッフ間のコミュニケーションの機会が減少し、不安を感じた」も34.9%であった。

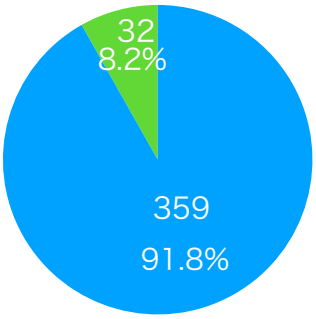
問：緊急事態宣言発令中(4/7～5/25)の新型コロナ感染症拡大時、あなたはケア事業にはいっていましたか？



（412人の回答）

- はい
- いいえ

問：ケアを行うにあたって不安はありましたか？

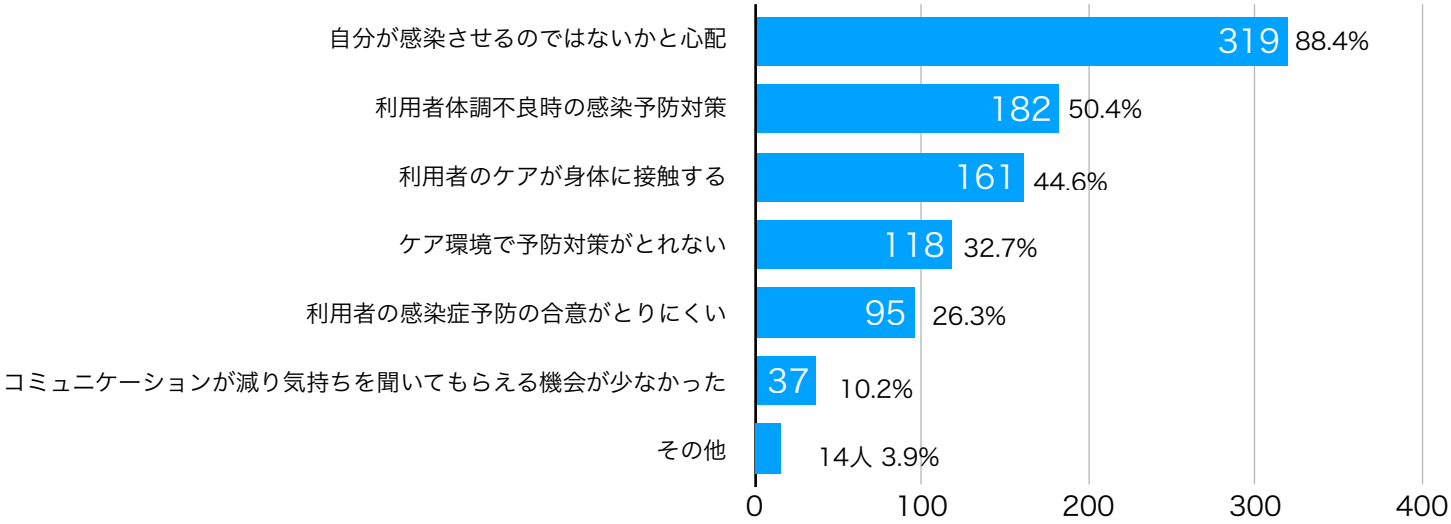


（391人の回答）

- はい
- いいえ

問：どんな不安がありましたか。（ケアにはいっていた者の回答）（複数回答可）

（361人の回答）



問：３密を避けることが求められ、利用者のケアや関わり方も見直さざるを得ない状況が生じたと思います。その際、どのようなことを感じましたか。(複数回答可)

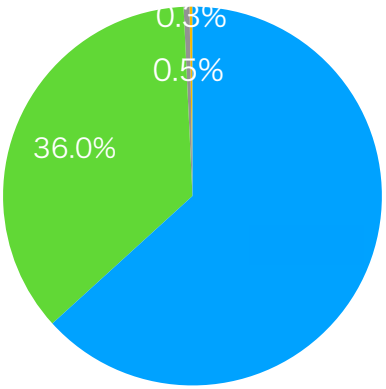
（373人の回答）

接触を制限することは現実的に不可能でありストレスを感じた	223	59.8%
必要な支援が提供できない不安を感じた	132	35.4%
スタッフ間のコミュニケーション（報告・連絡・相談）の機会が減少し、不安を感じた	130	34.9%
リスクに対する考え方が様々でスタッフ間に軋轢が生じ疲弊した	69	18.5%
３密を避ける具体的な対策がなく悩んだ(今も悩んでいる)	71	19.0%
その他	25	6.7%

3. 感染症予防対策については、「ある程度の対策は取っていたが万全ではなかった」36.0%となった。新型コロナウィルス感染症についての情報も混乱している中で、感染予防対策をとっていても漠然とした不安が付きまとっていたことがうかがえる。

問：所属している事業所の感染症対策はどのようでしたか？

（400人の回答）

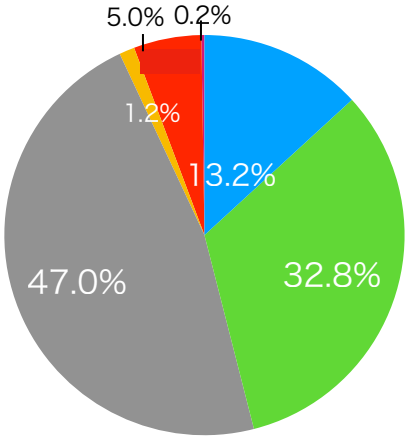


対策をとっていた	253	63.2%
ある程度の対策は取っていたが万全ではなかった	144	36.0%
対策を取っていない・ 知らされていない	2	0.5%
その他	1	0.3%

4. 感染症予防対策の備品は、「事業所より一部支給されたが足りないので自分でも購入した」、「事業所からは配布されなかった」が合わせて48.4%にのぼる。事業所や行政からの支給では足りず、個人で調達せざるを得ない、或は、調達も難しくケア者が手作りをしている状況もあった。

問：感染症予防対策の備品についてお聞かせください。

（402人の回答）

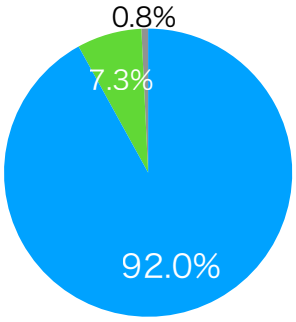


事業所より全て支給された	53	13.2%
ケアに必要な備品は事業所より支給された	132	32.8%
事業所より一部支給されたが足りないので、自分でも購入した	189	47.0%
事業所からは配布されなかった	5	1.2%
行政より支給された	22	5.5%
事業所、行政よりの支給は足りなくマスクも手に入らず自分で作った	1	0.2%

5. 濃厚接触者、および、感染を疑われる人のケアに入った者は8.1%であった.。

問：濃厚接触者、または、感染が疑われる人のケアに入ることがありましたか？

（399人の回答）

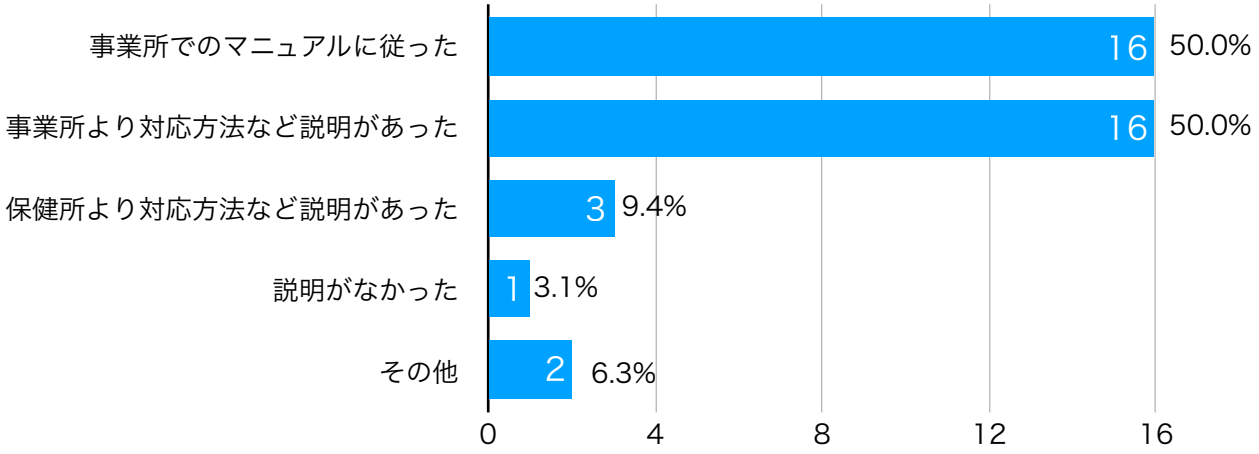


なかった	367	92.0%
感染が疑われる人のケアに入った	29	7.3%
濃厚接触者のケアに入った	3	0.8%

6. 事業所のマニュアルにもとづきケアを行っていたことが読み取れる。

問：濃厚接触者、または、感染が疑われる人のケアにあたって、十分な説明がありましたか。(複数回答可)

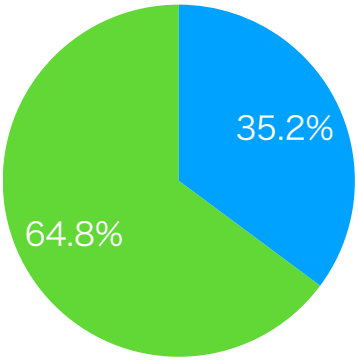
（31人の回答）



7. 休業中に事業所からの補償（休業補償）があったとした者は35.2%にとどまる。収入が途絶えた介護者も多い。

問:休業中に事業所からの補償はありましたか?

（219人の回答）

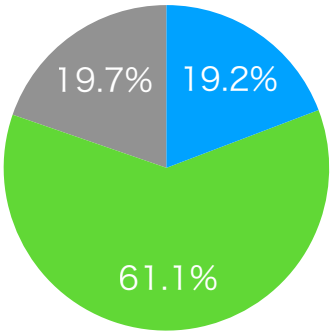


ある	77
ない	142

8. 今後の収入や働くことに関して「不安がある」、「多少不安はある」とした者が80.8%にのぼる。一方で、今後も仕事を続けたいと回答した者は78.5%であった。
その理由として、「利用者に必要とされている限り、これからも続けていきたい」（66.5%)、の回答が最多であった。次いで、「やりがいは感じるが、もっと報酬が高くあるべきと思う」（49.9%)、「社会に必要な仕事であることを改めて感じた」（43.5%)であった 。コロナ感染症拡大時のケアに不安を抱えながら、利用者の在宅生活を支えるために誇りを持ってケアにあたっていることがうかがえる。対して、報酬や社会的地位がそれに見合っていない状況が読み取れる。志に応え、介護人材確保に向けた対策を求めたい。

問：今後の収入や働くことに関して不安はありますか？

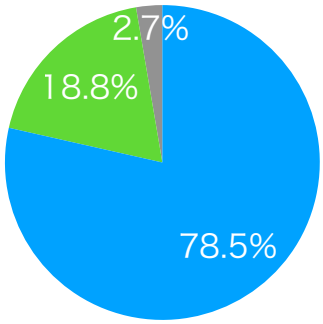
(411人の回答)



不安はない	79
多少不安はある	251
不安である	81

問：この仕事について、どのように考えていますか？

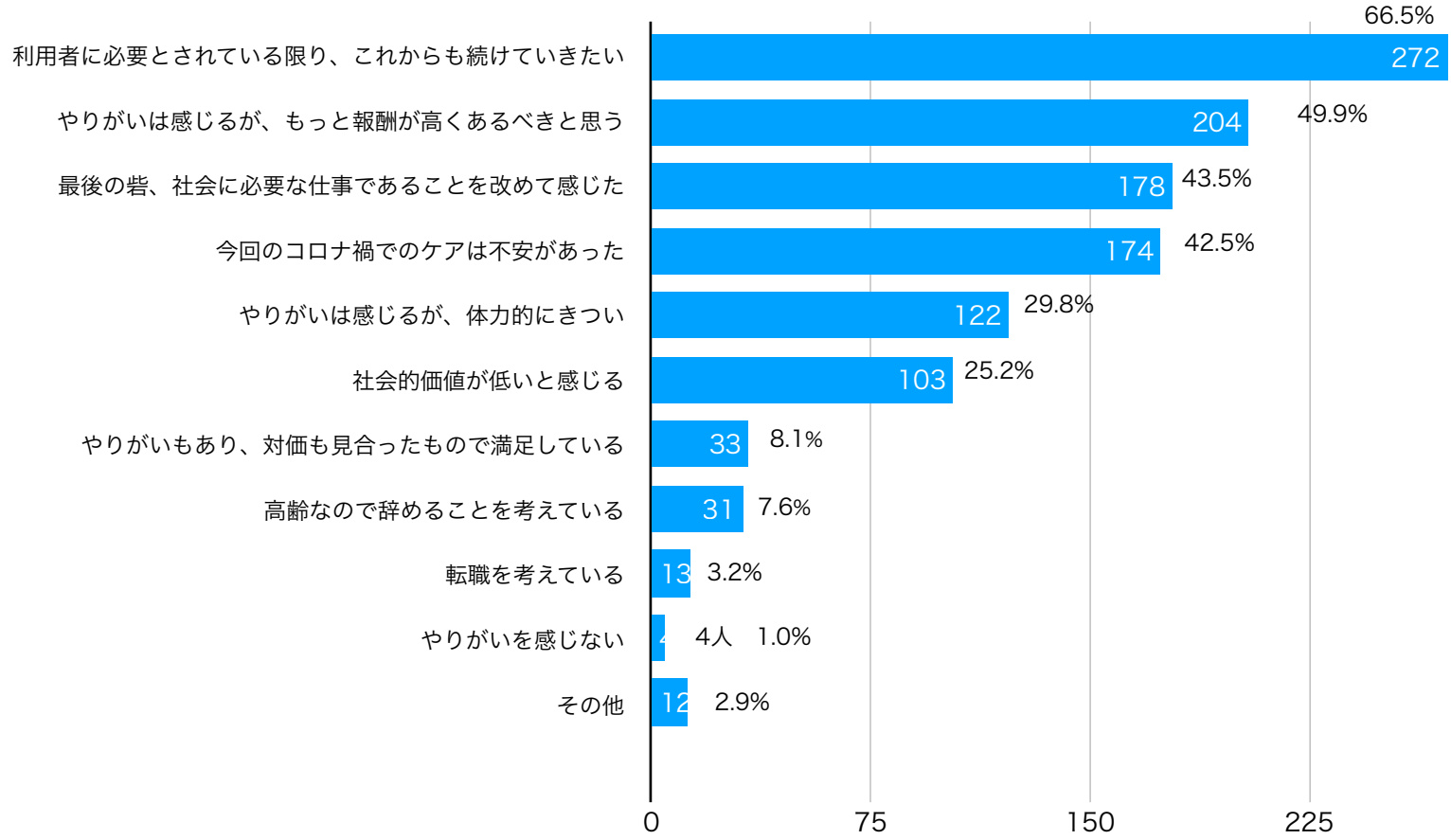
(410人の回答)



続けたい	322
続けるかどうか迷っている	77
やめたい	11

問：理由をお聞かせください。　(複数回答可)

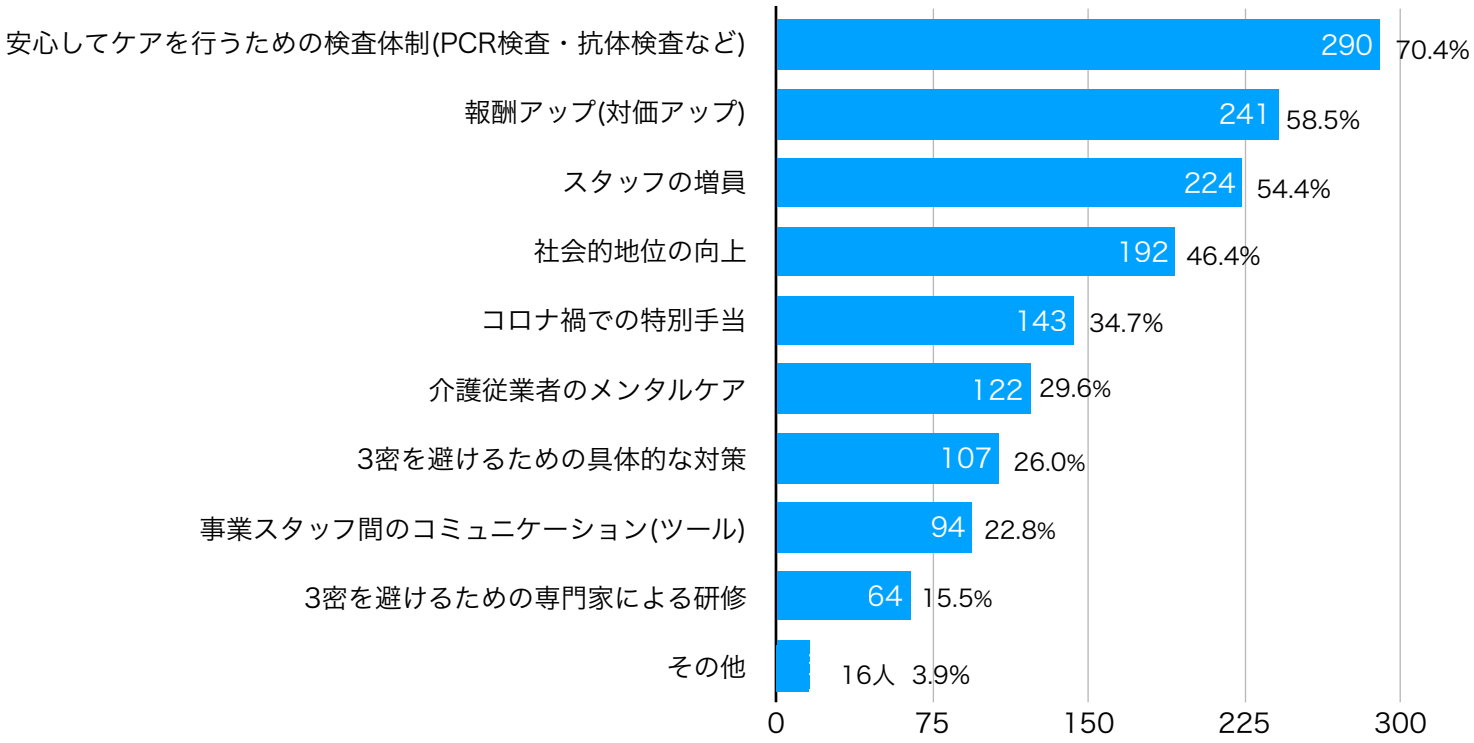
(409人の回答)



9. 今後も、仕事を続けていく上での最も強い要望として、安心してケアを行うための検査体制(PCR検査・抗体検査など)」をあげた者が70.4%にのぼる。自治体、および、厚労省には、あらためて対応を求めたい。

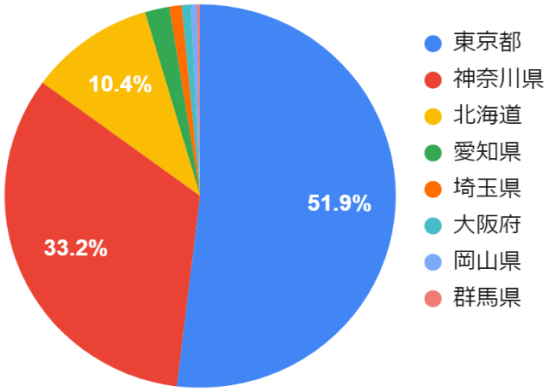
問：どうしたら（何があれば）この仕事を続けられると思いますか？(複数回答可)

(412人の回答)



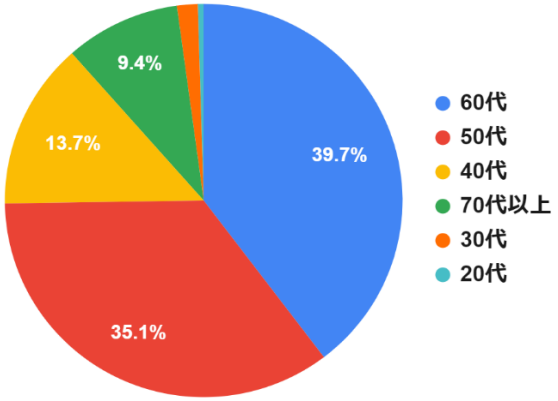
調査結果（データ編）

問１．あなたの居住区を、差支えのない範囲でお答えください(都道府県・市町村・区)。<395人の回答>



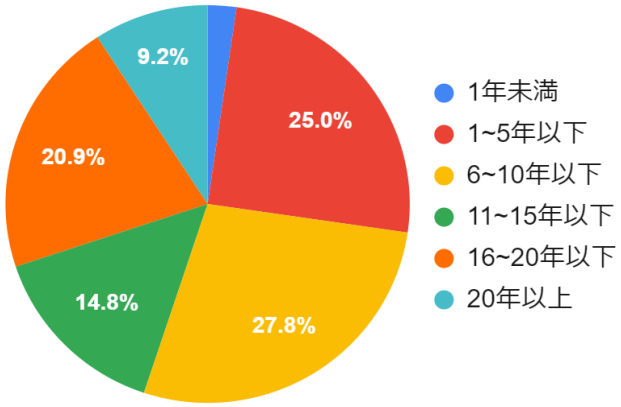
東京都	205
神奈川県	131
北海道	41
愛知県	8
埼玉県	4
大阪府	3
岡山県	2
群馬県	1
無回答	28

問２．あなたの年代をお教えください。<416人の回答>



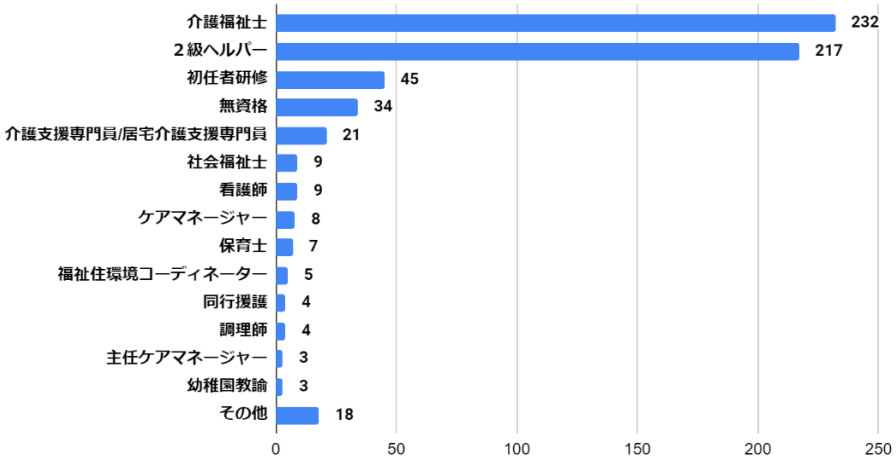
60代	165
50代	146
40代	57
70代以上	39
30代	7
20代	2
無回答	7

問３．あなたの勤続年数をお教えください。<392人の回答>



1年未満	9
1~5年以下	98
6~10年以下	109
11~15年以下	58
16~20年以下	82
20年以上	36

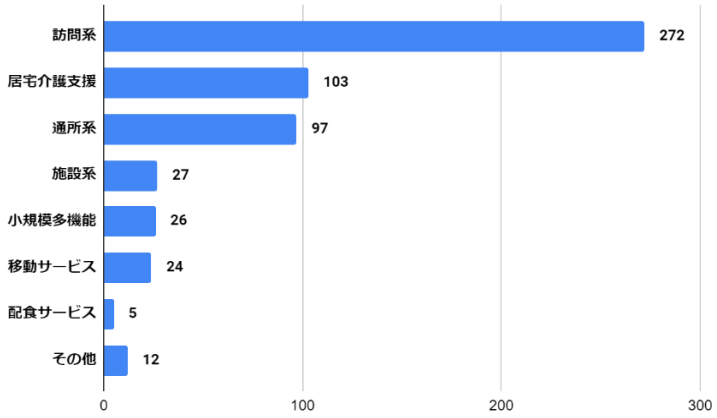
問４．あなたがお持ちの資格について、お教えください(複数回答可)。<408人の回答>



<その他の資格内訳>

管理栄養士	2
福祉用具専門相談員	2
小学校教諭	2
1級ヘルパー	2
養護教諭	2
ガイドヘルパー	2
福祉有償運送運転者講習	1
認知症実践リーダー	1
介護事務管理士	1
市認定ヘルパー	1
准看護師	1
実務者研修	1

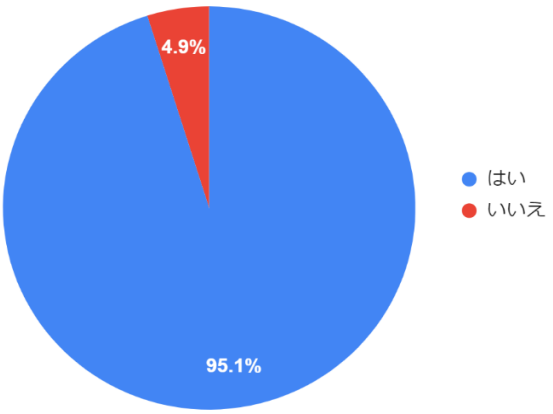
問５．あなたが勤務する事業所の種別をお教えください(複数回答可)。<410人の回答>



<その他の事業所内訳>

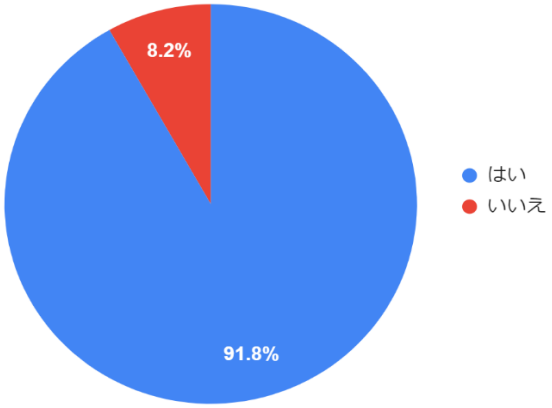
サ高住	2
障がい福祉サービス	2
一時預かり事業	2
保育所	2
子育て支援	1
行政補助金事業	1
小規模保育	1
NPO	1

問６．緊急事態宣言発令中(4/7～5/25)の新型コロナ感染拡大時、あなたはケア事業にはいっていましたか？
<412人の回答>



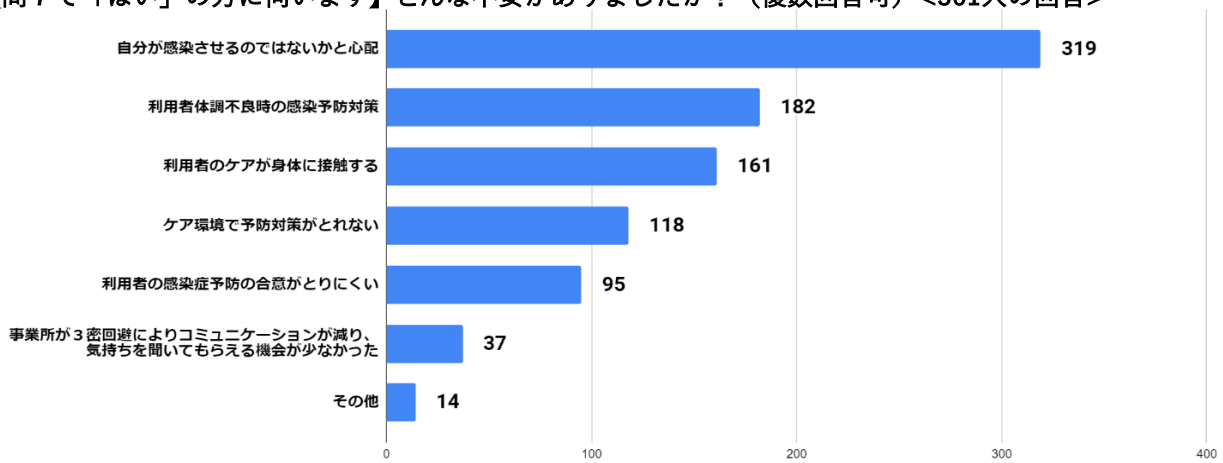
はい	392
いいえ	20
無回答	11

問７．【問６で「はい」の方に伺います】ケアを行うにあたって、不安はありましたか？<391人の回答>



はい	359
いいえ	32
無回答	32

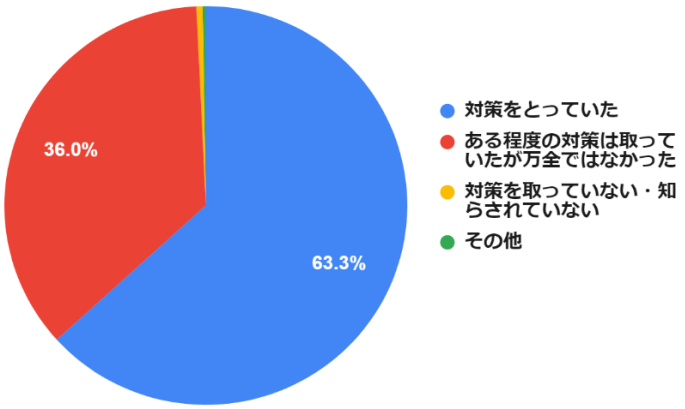
問８．【問７で「はい」の方に伺います】どんな不安がありましたか？（複数回答可）<361人の回答>



<その他の不安内訳>

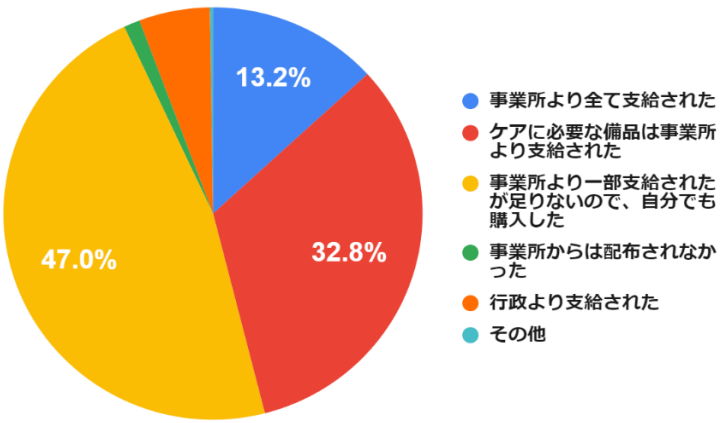
家族への感染の心配、自分が感染した時の事業所の心配。
事務所が小さく密になる事。
コロナ発生している病院の付き添い。
スタッフが同じレベルで感染予防にあたれない。個人的な外出をどこまでしていいか躊躇う。
感染させられるのではないか？の不安。
メンバー間の意思の疎通が取れなかった。
利用者は一人暮らしだが、利用者家族は感染者が多い地域に住み、利用者を訪ねてくる。そこからの感染が怖かった。
利用者とその家族の心理ケア。
要ケアの利用者をも一方的に事業所がケア中止にして利用者が困り果てた。ケア者としてどうあるべきか悩んだ。
利用者側から感染したというニュースがあったのでそれが心配。
利用者の過剰反応。
医療の過剰反応。
仕事が増えた。

問９．所属している事業所の感染症対策はどのようでしたか？<400人の回答>



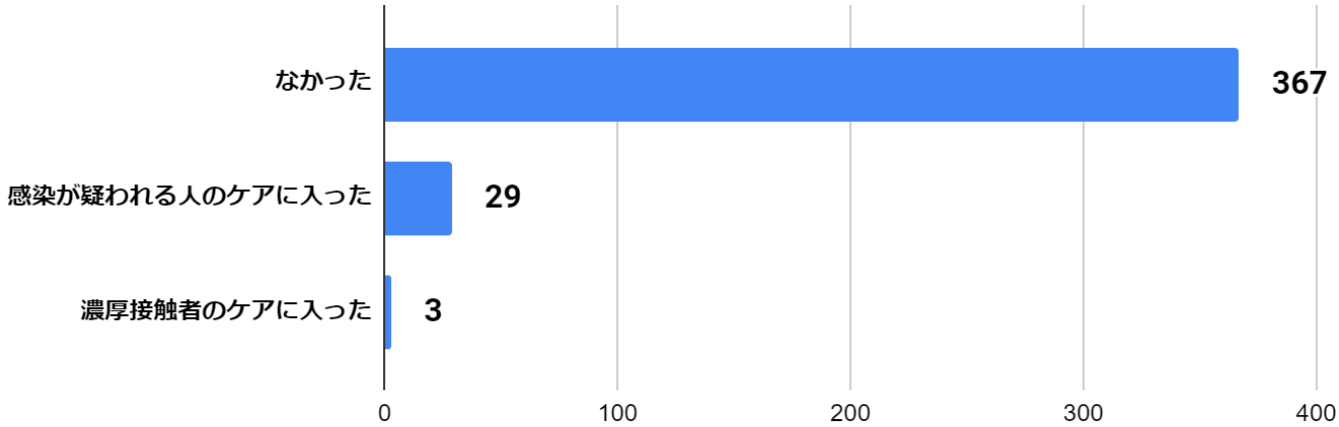
対策をとっていた	253
ある程度の対策は取っていたが万全ではなかった	144
対策を取っていない・知らされていない	2
その他	1
無回答	23

問１０．感染症予防対策の備品についてお聞かせください(マスク・フェイスシールド・防護服など)
<402人の回答>

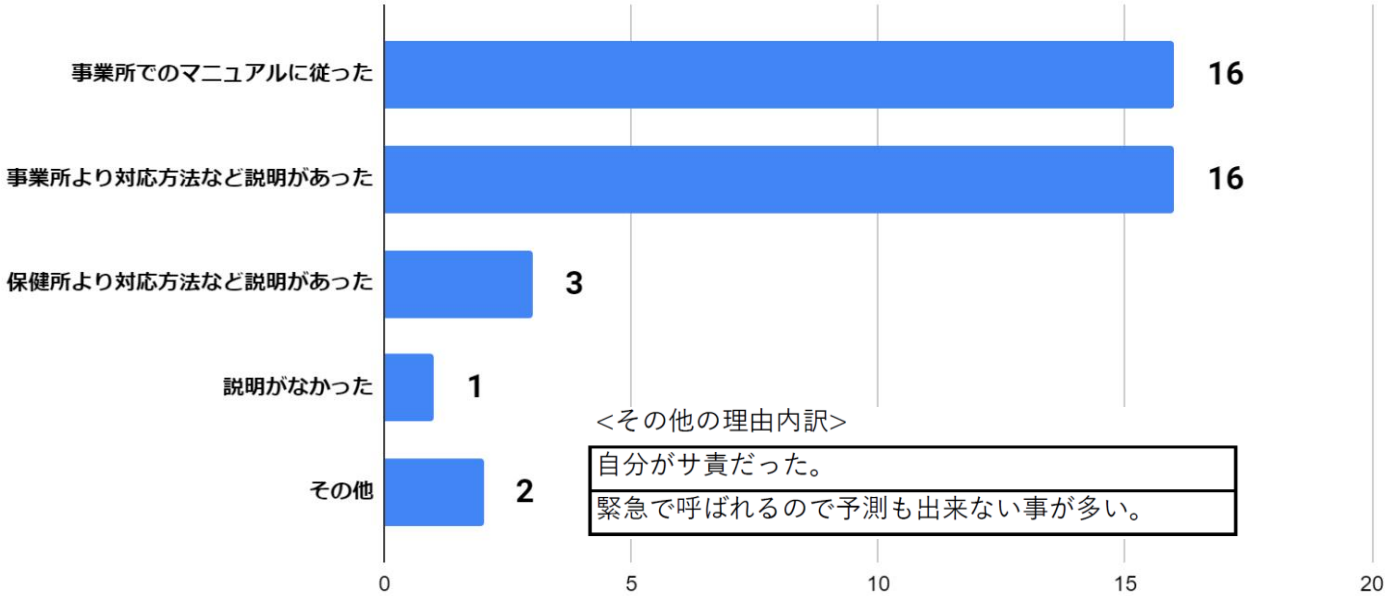


事業所より全て支給された	53
ケアに必要な備品は事業所より支給された	132
事業所より一部支給されたが足りないので、自分でも購入した	189
事業所からは配布されなかった	5
行政より支給された	22
その他	1
無回答	21

問１１．濃厚接触者または、感染が疑われる人のケアに入ることがありましたか？(複数回答可)<399人の回答>



問１２．【問１１で「濃厚接触者」または「感染が疑われる人」のケアに入った方に伺います】濃厚接触者、または、感染が疑われる人のケアを行うにあたって、十分な説明がありましたか？(複数回答可)<31人の回答>



<その他の理由内訳>

自分がサ責だった。
緊急で呼ばれるので予測も出来ない事が多い。

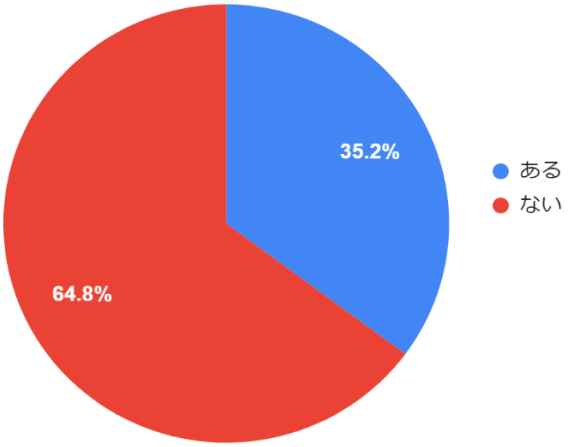
問１３．【問６で「いいえ」の方に伺います】緊急事態宣言発令中(４/７～５/２５)あなたは新型コロナ感染拡大時に、ケア事業に入らなかった(入れなかった)理由についてお聞かせください(複数回答可)。<14人の回答>

保育所、学校などが休業になったため	5
自身が利用者へ感染させるリスクが心配があったため	1
感染のリスクを心配する家族の意向のため	1
本人や家族の感染、およびその疑いや体調不良のため	1
その他	6
無回答	6

<その他の理由内訳>

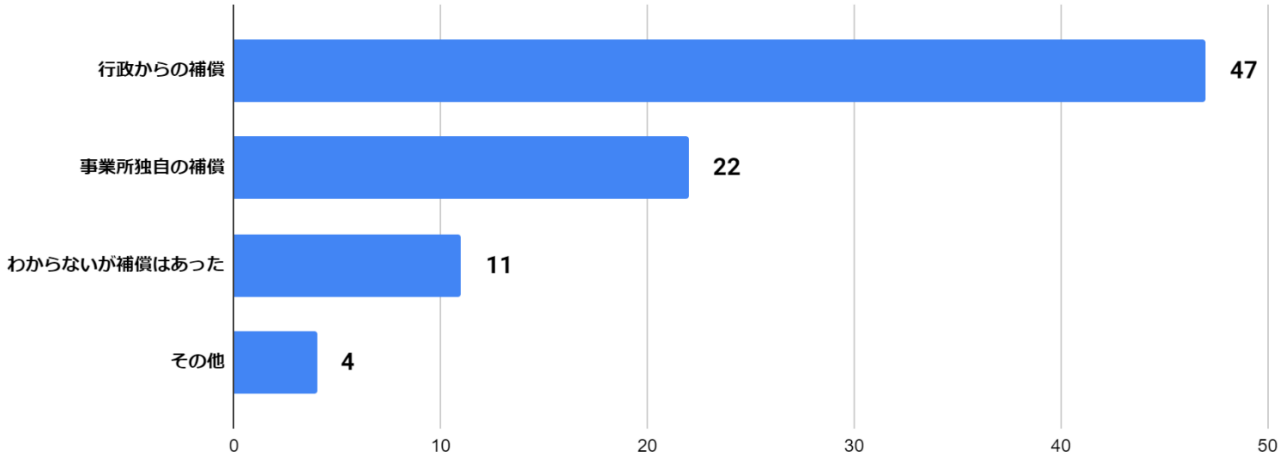
ケア事業者ではないため	1
コロナ拡大前にケア事業から外れたため	1
なかった	1
行政補助金事業の通所ミニデイが緊急事態宣言発令で自粛、休館となった。	1
事業所が規模を縮小したので、シフトに入る必要がなくなった	1
法人の業務が忙しくケアを外してもらったため	1

問１４．休業中に事業所からの補償はありましたか？<219人の回答>



ある	77
ない	142
無回答	204

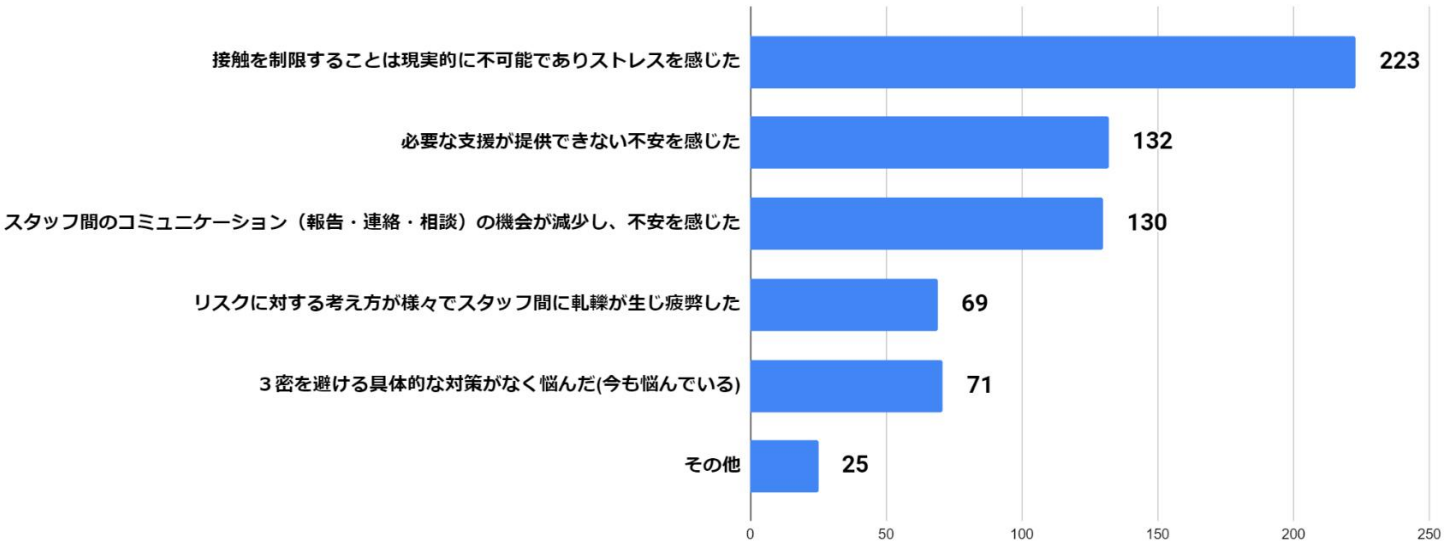
問１５．【問１４で「ある」の方に伺います】どんな補償でしたか？(複数回答可)<76人の回答>



<その他の補償内訳>

雇用調整助成金による休業補償。
常勤・固定給。
補助金からシフト組していた分を6割程度支給。

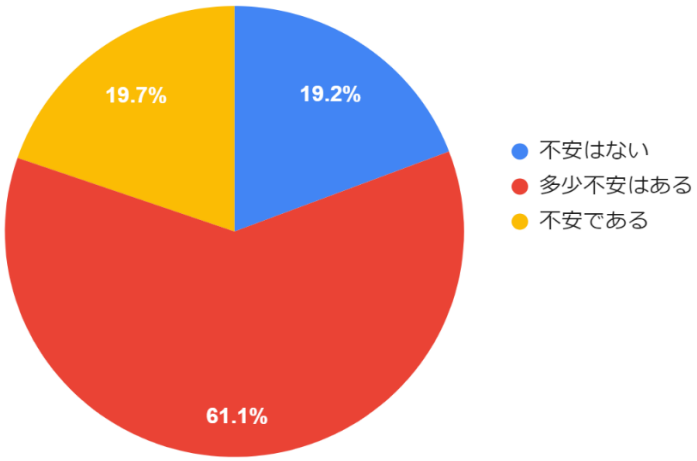
問１６．３密（密閉、密集、密接）を避けることが求められ、利用者のケアや関わり方も見直さざるを得ない状況が生じたと思います。その際、どのようなことを感じましたか(複数回答可)。<373人の回答>



<その他の内容内訳>

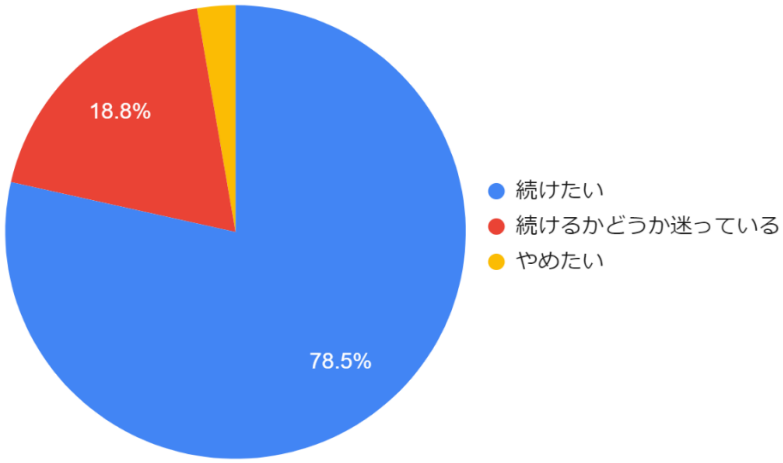
必要な感染対策を取りたいが利用者からは自分たちをバイ菌扱いするのかと思われる、それがストレスだった。
不安ではあるが、利用者の話を聞きモニタリングは欠かさず実行した。
利用者のコロナに対する考え方も様々。
介護は身体接触にならざる得ない。
ケアマネ業務の中では、直接訪問でなくても利用者の状態が安定していれば他の連絡方法で代えることはできた。
出来る限りの予防をし、臨んだ。ご利用者も協力してくれた。
今まで以上にスタッフ間のコミュニケーションをとるようにした。
どうしようもない環境もあり（間取り等）、重装備で対応した。
特に支援の方から訪問キャンセルが多く、支援がなくても大丈夫な方がいると分かった。
それなりに対応した。
その都度利用者に、チラシや情報提供し協力を求めながらケアをしていたので、特に弊害はありませんでした。
利用者へ理解協力を求め、3密を避けることができた利用者も多々あったが、一部の利用者で理解をしても実行が難しい場合があった。障がい特性でやむを得ない場合もあり、必要なサービスを提供しながら感染リスクを減らすにはケア者の自己管理自助努力が必要であった。ストレスを感じるほどではなかった。
接触を避けることは不可能であり、感染対策をしつつケアを行うしかないと思った。
移動するバスの中が不特定多数のために不安を感じる。
利用者さんがマスクを外していても、マスクをしておくべきか迷いがあった。
具体的に感じたことはなかった。

問１７．今後の収入や働くことに関して不安はありますか？<411人の回答>



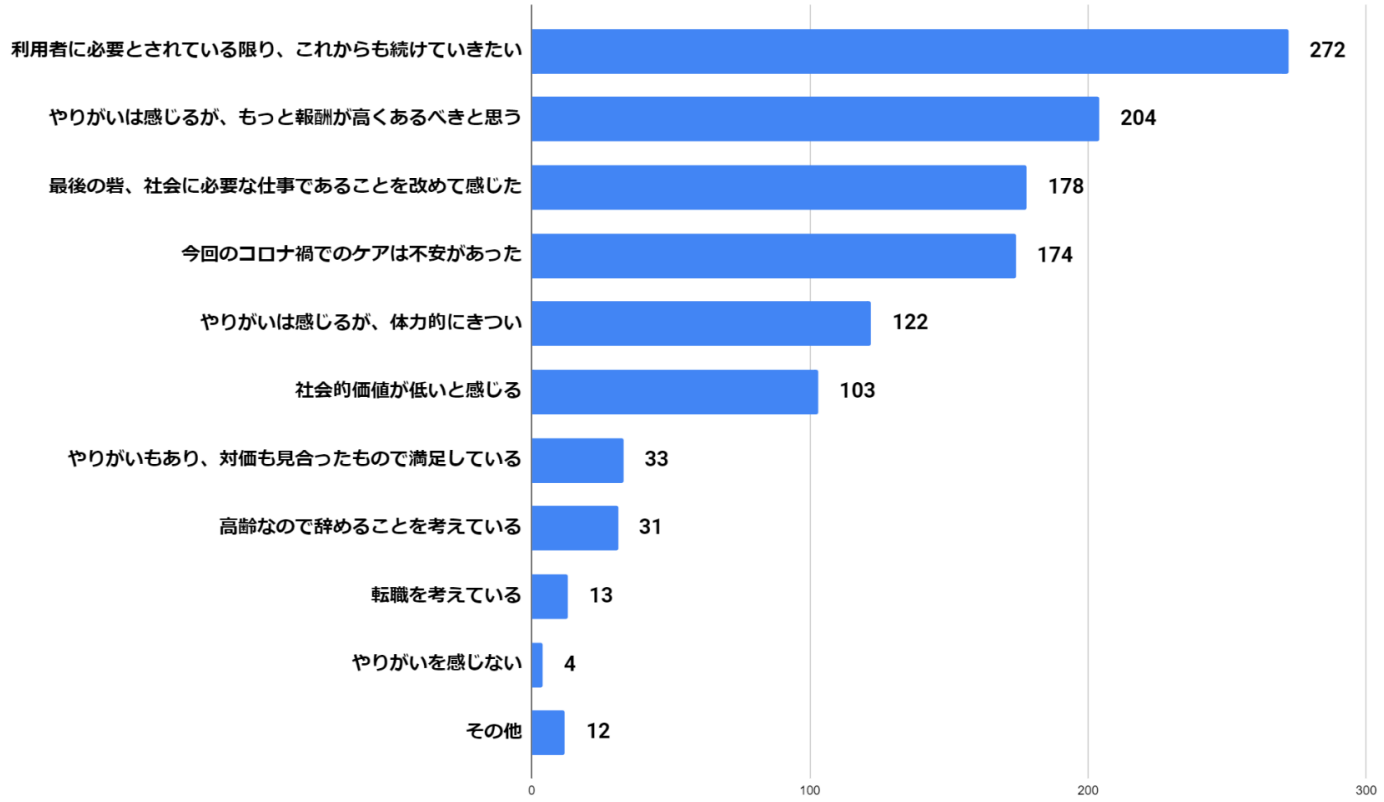
不安はない	79
多少不安はある	251
不安である	81
無回答	12

問１８．今回のコロナ禍で、予防対策を講じてケアに関わってこられた方、また、休業を余儀なくされた方もおられると思います。あなたは今この仕事について、どのように考えていますか？<410人の回答>



続けたい	322
続けるかどうか迷っている	77
やめたい	11
無回答	13

問１９．問１８の回答理由をお聞かせください(複数回答可)。<409人の回答>

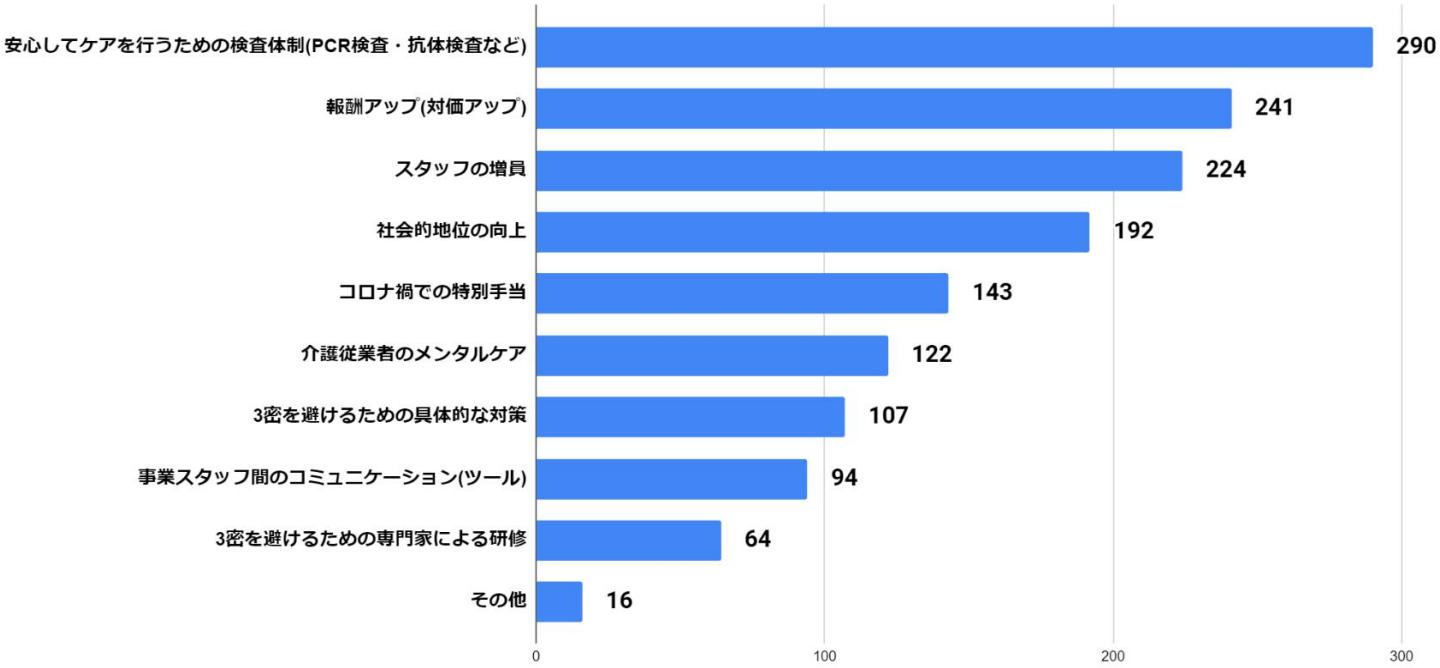


利用者に必要とされている限り、これからも続けていきたい	272
やりがいは感じるが、もっと報酬が高くあるべきと思う	204
最後の砦、社会に必要な仕事であることを改めて感じた	178
今回のコロナ禍でのケアは不安があった	174
やりがいは感じるが、体力的にきつい	122
社会的価値が低いと感じる	103
やりがいもあり、対価も見合ったもので満足している	33
高齢なので辞めることを考えている	31
転職を考えている	13
やりがいを感じない	4
その他	12
無回答	15

<その他の理由内訳>

やりがいはあるが、ストレスが大きい(特にサ責や管理者)。
主人の介護のため。
地域で助け合い暮らすことは当たり前と考えるから。
社会に必要とされる専門職であることが社会に認識されておらず、待遇が低すぎる。
人生　何があるかわからないので、本当にやりたい仕事をしたい。
スタッフに恵まれている。
介護は社会的に絶対必要な仕事なのに、医療に比べ評価が低いと改めて感じた。
買い物ケア、病院への付き添いなど、他人のケアとして人混みの中へ出向くことに対して、とても恐怖なストレスがかかった。基礎疾患があるから。
コロナ禍に関係なく、今後の人生を考え直したい。
この仕事が好きだから。
離れた親の心配がある。

問２０．どうしたら（何があれば）この仕事を続けられると思いますか？(複数回答可)<412人の回答>



安心してケアを行うための検査体制(PCR検査・抗体検査など)	290
報酬アップ(対価アップ)	241
スタッフの増員	224
社会的地位の向上	192
コロナ禍での特別手当	143
介護従業者のメンタルケア	122
3密を避けるための具体的な対策	107
事業スタッフ間のコミュニケーション(ツール)	94
3密を避けるための専門家による研修	64
その他	16
無回答	13

<その他の内容内訳>

仕事に見合った公的な報酬の見直し。
ワクチン接種。
行政による正確な情報提供と、具体的な対策による実技研修の実施。
業界全体の技能、意識の向上につながる研修機会の確保。
新しい生活に馴染みたくない層がいる限り環境を変えることは困難。情報・考え方・行動などスタッフ自身のアップデートが必要。
肉体的負担が大きい。リフト、その他入居者を抱き抱えたり、離臥床する際の機械やリフトの充実を望みたい。
手袋防護服消毒等必需品の配布。
感染予防のための専門家による研修。
自分の気持ち。
掃除用グローブの支給、利用者のマスク使用。
必要とされれば。
防護服等の揃った環境。
休養。
利用者の理解を得るのが難しいので、高齢者にわかりやすいコロナパンフレットなど、ケア者に対する理解もできるようにして欲しい。

「介護従事者・コロナ禍のケア状況アンケート」

発行日　2020年10月
発行者　介護の崩壊をさせない実行委員会

編集者　生活クラブ運動グループ・横浜ユニット連絡会
連絡先　aek02225@nifty.com